

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

## 自由討議

木村：自由討議ですが、もう時間がないので、前回と同じく、感想を書いていただいて、共有したいと思います。今日気づいたこと、発見したこと、感じたことを書いてみてください。

それを見ていただいて、諸葛先生にもコメントをいただきたいと思います。

(各自附箋に記入)

木村：それでは、皆さんまだ書きたいこといっぱいあるでしょうけれども、この辺で共有タイムにしたいと思います。もう予想はついていると思いますけど、Gさんからどうぞ。

G：安直な感想になっちゃうのですけれども。まず、まあメディアの情報しかなかったのですけれども、今の福島は、人が本当に一步でも入ったら危険というイメージがあったのですけれども、お話を聞いて、そういうこともないのかなと。まあ、まだ確信というわけじゃないのですけど、ちょっといけるのではないかなって考えが変わったと思いました。

それと、日本は技術大国と言われていたのですけれども、法律整備が漠然としていて、アメリカとかはちゃんとした基準があるのに、日本はだいぶ遅れているというのを実感しました。

それに付随して、安全基準を早く作ればいいのかと思います。やっぱりちゃんとしたラインがないと、現実に作るというのは難しいじゃないですか。それを今は棚上げしてしまっているというのが残念と思いました。

最後に、まとめではないのですけれども、原発のあり方が変わるなら今じゃないかなと。原発事故の後で、これから日本がどう原発と向き合っていくのかを決めなければいけないのは今しかないと思いますし。そこでどうなるかは私もまだ分からないのですけれども、今の段階で変わっていくのではないかという期待も不安も入り混じった考えです。

木村：はい。じゃあ、Fさん、どうぞ。

F：私は、安全目標とかそういうものを見ていて、数値だけで今だいぶ反原発になっている国民の感情を動かすのは結構厳しいかなと思いました。

原発自体が、国民全体に基本的な部分を理解させるにはそもそも複雑で、1回反対になっ

たものを賛成にするにはちゃんと理解させなければいけないとは思うのですが、それをするには複雑すぎるシステムかなと私は思いました。

あとは、国が再稼働をしたいのだったら、国民全体のご機嫌を伺うような感じの理想論じゃなくて、割とぶっちゃけた感じの対応策を出してくれないと、原発再稼働に対して賛成の立場は取れないかなと個人的に思いました。以上です。

木村：はい。じゃあ、Eさん、どうぞ。

E：まず、原発の種類、制御棒の種類で、PWRとBWRがあることは初めて知りました。

あと、福島第一原発と第二原発が同じくらい危険な状態にあったということも初めて知って、ああ、そうだったんだって印象的でした。

福島事故前後で海外情勢があまり変化していない、推進派はまだ推進しているし、批判派は批判しただけで、逆転は起きていないというのがちょっと意外でした。

あと、法律を変えられないっておっしゃられたのですが、原発安全だっというふうにすぐに変えられても困るし、変えにくいというのも困るから、どうしていいかわからないなとしました。以上です。

木村：はい。じゃあ、Dさん、どうぞ。

D：まず、安全性についての議論の方向性の差と書いたのですが、原子力の安全性というときに、世論的には、とりあえず原発は危ないから再稼働しないで、それよりも低レベルの被ばくとかのほうに議論が向きがちなのが起きているのですが、今回の話は、まあエネルギーという観点の話ではあったのですが、低レベル被ばくの話よりも、今後のエネルギーとか原子力発電についての方向性とか、そういったことに関する議論が必要なのだなと分かって、専門家の方たちと一般の人々に結構まだギャップがあるなと感じました。

私は、**Safe Enough** は不可能かなとちょっと思いました。最大規模の事故が起こったらとか、まだ知識を持った人が少ないとかいう話もあったのですが、不確実な中で何か決定していかなければいけないので。でも、やっぱり国民としては **Safe Enough** を求めがちだから、そういうところは国民感を変えなければいけないのかなとしました。

基準や目標を現実的に検証してみる必要って書いたのですが、100 万年前にはまだ今の人類は生まれていなかったとか、規制基準に出ている数値や年数も、実際によく考えてみるとどうなのかと疑ってみる姿勢を持たなければいけないなとしました。

あとは、外部ほど心配していると書きました。原子力をどうするかという話をするときに、外部の東京とかで行われているイベントなどを注目して見がちだったので、福島で原子力やエネルギーに関する議論の場がもしもあるのだったら、気にして見てみたいなと思

いました。以上です。

木村：はい。じゃあ、Cさん。

C：まず思ったのが、政府は国民に都合のいい内容だけしか説明していないなということですね。PWRとBWRの違いも、実質的にはそんなに差がないのに、差があるように見せかけているのかなと思いました。

それから、福島事故が起きて、まだ世界では原発の建設が続いていて、コストとかCO<sub>2</sub>削減のほうに目が向いて、そちらに動いてしまうのだなと。事故の影響をあまり考えていないのではないかなと思いました。

それから、福島の現地の人に放射線のセシウムとかの調査の協力が得られていないのがちょっと残念だなと思いました。

あと、安全目標をこれから高く掲げていくという話だったのですけれども、やっぱり専門家とか本当に分かっている人をリーダーにするのが安全目標を高めることにつながるのではないかなと思いました。以上です。

木村：はい。じゃあ、Bさん。

B：安全基準とか結構いろいろ話があって、低レベル被ばくの影響は、事例が少なく、詳しいデータがないから、分からないところが大きくて、まだ何とも言えないみたいなのところがあるのだなというのが印象的でした。

あと、これは他の人ともかぶっているのですが、福島に住んでいる人たちは被ばくのことをあまり気にしていないというのが印象的でした。以上です。

木村：はい。じゃあ、Aさん。

A：結構かぶるところもあるのですけれども、福島事故現場での放射線量が意外と低いことを今日初めて知りました。

それに付随して、放射線被ばくにも様々な基準があるということもよく分かりました。

あとは、福島第一原発の事故は何が原因だったのかとか、第二原発とはどういう違いがあったのかというのは知らなかったもので、その原因の違いを知れてよかったです。

最後に、他の人とだいぶ重複するのですけれども、科学や実証データに基づいた議論が必要じゃないかと書きました。先生がおっしゃってくれたように、福島の人に線量計を配っても測ってくれないとか、分かっていることもあるし、分かっていないこともあるということをはっきりさせることも重要だと思うのです。あとは、まあ実際にどう判断するかは人それぞれだと思うのですけれども、危険だ、危険だっておおって、それに乗っかるこ

とは確かにできると思うのですけれども、じゃあ本当に危険なのかというのは、冷静に科学的な根拠と根拠をぶつかり合わせないと議論の意味がないわけで。Safe Enough という考え方も、完璧に Safe Enough というのは無理なわけですよ。スライドにもありましたけれども、「統計的に有意に人体に影響がない」という範疇までしか言えないと思うのです。100%ではないと思うのですよ。統計的に有意ということは、100%そうだということを意味しないわけですから。でも、できる範疇で、しかも客観的なデータとか学問的な知見に基づいて、そういった議論をしていくことが一番求められているのではないかなと思いました。

木村：ありがとうございます。

そうしたら、諸葛先生、もう時間が越えてしまっているのですが、これを見て、コメントしておきたいということがあれば、どうぞ。

諸葛：放射線の話がずいぶんいろいろな人から出ていますけれども、非常に影響のレベルが低いので、逆に言うと、発がん確率とかのほうが非常に高く見える。そうすると、放射線の影響と、発がんの確率との競争になってきて、この程度の被ばくのレベルだと、小学生が校庭で運動をしないことによって発がん確率が高くなるほうが、むしろ、確率としては高いのです。だから私は全然気にしないで運動をしたほうがいいと思っているのだけど、そう言うとひんしゆくを買うから言わないのだけど、実際は、もっと大きな声で言ったほうが良かったなと思っています。放射線は、まったく気にしないでいいですよ。

むしろ遠くにいる人たち、例えばイギリス人は、福島事故は、3基も原子力発電所がメルトダウンしていながら、放射線による有意な影響を受けた人は1人もいないと。間接的に亡くなった方は1,500人いらっしゃるのだけど、それは避難したことによって亡くなられたのであって、放射線による被害者はまったくいないと。原子力の事故はもっと悲惨なことになるのではないかと思っていたけれども、さほどでなかったな、という印象を、遠くにいる人たちは持ったみたいです。日本にいる人たちはすごく怖がったけれども、外にいる人たちは、たいしたことないなと。原子力の事故は、チャイナシンдрームで突き抜けてしまうのではないかと言われていたけれども、今回は燃料棒が溶けて下に抜けていったところもあるけれども、途中で止まっているのですよ。だからチャイナシンдрームにもならなかった。そうすると、原子力発電所って、むしろ、安全だなと思った人が、外にはたくさんいたみたいです。

というような話を最後にして、皆さんのご意見は、どれもおっしゃる通りだと思います。

木村：それでは、これで諸葛先生の講義は終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)